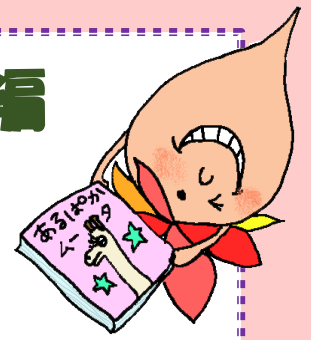


きじむんのとう～ちゅいむに～ 十二支編

第3回：未



キーワード 羔 羊 山羊 山羊の妖怪

ハイタイ&ハイサイ!! こんにちは、みなさま、お元気ですか!? 今月は未(ひつじ)の話ですよ～

十二支の中の未・羊

古代中国では、時刻・方位・月などを12の獣に見立て、12進法で表現していました。それを十二支といい、陰陽道などの影響を受けて各地に広まったとされています。「未」は十二支の中の8番目にあたり、方位は南南西、時刻は午後1時～3時までをさします。字の成り立ちは、木にわかい枝が出ている状態を表わし、「わかい」「まだ～しない」という意味があります。また、よみが「味」に通じることから、果実が熟した状態をあらわす漢字でもあります。

「羊」はつのが生えたひつじを表し、「よい」「めでたい」という意味がある字です。また、羊は山の神とされており、あとの時代になって「未」と「羊」が併用されるようになりました(①)。

①寺島良安(尚順編)『和漢三才図会』



●羊と山羊

未と羊が併用されたように、羊と山羊も昔から混同されていました。①にも描かれていますが、この図はどうみても山羊。最も古い山羊の記録は、1477年の『朝鮮王朝実録』に載っています(『松涛書屋史料叢書全30巻 李朝実録』)。同書では、琉球には馬と「羔」(山羊)は沖縄本島のみにいると記されています。また、琉球大学附属図書館デジタルアーカイブ仲原善忠文庫・周煌(しゅうこう)編著『琉球国志略』六巻14の「物産」29頁にも「羊」(山羊)の文字が載っています(②)。この本は1757年の記録です。図②の文字は、下のQRコードでも確認できますよ!

●山羊の妖怪

沖縄本島各地には、山羊妖怪の話が伝わっています。その妖怪が出没するのは夜中、人を見ると突進してくるそう。人が逃げ切ったときには何もありませんが、山羊妖怪に追い越された時にはその人の命はないそう…怖いですね～。

妖怪話に関する本は、参考文献で紹介しています。興味のある方はどうぞ。

最後に琉球大学博物館・風樹館ビオトープの山羊を紹介して、十二支の未にちなむよもやま話はおしまい(③)。また次回、「どう～ちゅいむに～」でお会いしましょう!(NK)



②『琉球国志略』六巻14「物産」P29

■参考文献

- ①寺島良安(尚順)編『和漢三才図会 中之巻』(国立国会図書館デジタルコレクション)コマ番号9/2/周煌編著『琉球国志略』六巻14「物産」P29(琉球大学附属図書館デジタルアーカイブ・仲原善忠文庫)/嘉手納宗徳訳注『訳注松涛書屋史料叢書全30巻 李朝実録3』P171・184(松涛書屋1982)/福地曠昭著『沖縄の幽霊』P119(那覇出版社2000)/渡嘉敷綏宝著『沖縄の山羊』P13(那覇出版社1984)



③雄ヤギのポコちゃん(一歳半)。琉球大学資料館・風樹館のビオトープが住所です。ヨロシク!



②の画像は□□から!